

スキルアップ研修会で学んだこと

新潟病院 柿沼 郁哉

令和3年4月より新潟病院に配属になりました柿沼郁哉です。

私は大学を卒業後、企業に就職し、検査試薬のMRとして国立病院機構をはじめ、他の病院に検査試薬の情報提供及び試薬・機器の販売営業をしておりました。

MRとしてキャリアを積む中で、コロナウイルスが蔓延する過酷な状況下でも懸命に医療に従事する薬剤師を目の当たりにし、私もその一翼になりもっと近い位置で患者様の医療の手助けをしたと強く思い当機構に入職いたしました。

病院薬剤師として7か月ほどが過ぎ、調剤業務、監査業務、オンコール業務などを経験して、病院薬剤師としての一人で行える仕事が増えてきたときに、「スキルアップ研修会」の開催情報を知りました。

今後病棟業務を行うにあたり、患者様や他職種の医療従事者とのようにかかわればいいのか悩んでいた私にとってとてもいい機会になると思い、参加させていただきました。

抗菌化学療法認定薬剤師の廣瀬祥子先生、アレルギー疾患療養指導士の森村明音先生、リウマチ財団登録薬剤師の三浦裕美子先生による講義を聴講し、三つほど深く印象に残っています。

一つ目として認定・専門資格の種類が多さに驚きました。

がんや抗菌などは学生時に資格があることは聞いていましたが、リウマチやアレルギーに資格があることは初めて知り、調べると領域別に細分化されており、薬剤師として職域の幅が広がって

ると実感しました。

二つ目は、専門性を高めることは、チーム医療をより密接にかかわるための手段の一つになることを学びました。

カンファレンスなどで服薬経過や検査データを見ていくだけでなく、患者の今後に様々な角度からアプローチできると感じました。

三つ目は、認定資格は自身のスキルアップに見える化できることを学びました。

興味ある分野や工作上必要なスキルを自己研鑽したときの客観的指標になることや、実務経験の規定がある認定資格が多くある中で、経験年数が浅いからと遠ざけるのではなく学会や研修会などできるところから参加して早くからスキルアップできる環境があると思いました。

私は今回のスキルアップ研修会に参加して、チーム医療で強みを発揮できる環境を自らが切り開くことの重要性を先生方から学びました。

患者様や他職種の医療従事者から信頼される薬剤師として知識を研鑽する環境が整っていることで、自身の向上心や熱意で特色のある薬剤師になれることがわかりました。

コロナ状況下でお互いに顔を合わせる機会が減少した中、他の国立病院で医療に従事されている諸先輩方や、同世代の先生方に知ってもらうためにも、認定資格の取得に意味があると思っております。

最後になりますが、このコロナ禍のお忙しい中にも関わらず、開催に際して御尽力頂いた先生方、またご講義いただきました廣瀬祥子先生、森

村明音先生、三浦裕美子先生に感謝を申し上げます。

専門性を追求するには現状まだ力不足なところはありますが、いち早く先輩方に近づけよう常に情報をアップデートし、プロフェッショナルな付

加価値を付けられるように患者様との関わり合いの中で先輩薬剤師からのアドバイスを頂きながら、これからも目標とする薬剤師像に近づけるよう精進していきます。

